

GMOフリーゾーン運動の呼びかけ（2023）

遺伝子操作作物がない世界を広げよう

●GMOフリーゾーン運動で遺伝子組み換えもゲノム編集も跳ね返しましょう!

1999年にイタリアで始まったGMOフリーゾーン運動は、今、日本で新たな段階を迎えています。2021年から国内でゲノム編集トマトの栽培が始まり、ゲノム編集魚の養殖も始まってしまいました。大量の遺伝子を意図せず改変する恐れがあるゲノム編集は、遺伝子組み換え以上に安全性と生態系への影響が懸念されます。

ゲノム編集トマトは、野外の開放系で栽培されており、遺伝子拡散が懸念されています。その上、個人への苗の無償配布に始まり、福祉施設や小学校への苗の無償配布がもくろまれ、全国へ栽培が広がる可能性があります。ゲノム編集魚では、ふるさと納税返礼品に登録するなど、遺伝子操作を推進する人たちは売り込みに躍起です。ゲノム編集苗の受け取り拒否を求める運動、ふるさと納税返礼品登録の削除要請、ゲノム編集フリー種苗や食品の自主表示運動など、反対運動も広がっています。一気にゲノム編集生物の開発先進国になってしまった日本での反対運動は世界から注目されています。

GMOフリーゾーン運動は遺伝子組み換え作物にゲノム編集生物を加え、遺伝子操作食品に反対し、拒否する運動として取り組まれています。ゲノム編集魚が開発されている状況で、海のフリーゾーン宣言にも力を入れています。2020年にはGMOフリーゾーン宣言農地は全国で10万haを超えました。GMOフリーゾーンサポーター宣言も始まっています。ゲノム編集生物がこれ以上広がる前に、ゲノム編集生物の問題点を多くの人に知らせ、ゲノム編集苗の受け取り拒否を求める運動などとも連携して反対運動を広げていきましょう。食品の遺伝子操作を許さない生産者と消費者、その間をつなぐ事業者等が連帯して、GMOフリーゾーンの輪を広げていきましょう。

※遺伝子組み換え及びゲノム編集を含む遺伝子操作生物を対象としますが、引き続き「GMOフリーゾーン」の名称を用います。

GMOフリーゾーン宣言		遺伝子組み換え及びゲノム編集を含む遺伝子操作生物を栽培・飼養しないことを宣言(農地、牧場、森林、海)
GMOフリーゾーンサポーター宣言	消費者	遺伝子操作食品は買わない、GMOフリーゾーン宣言をした生産者を支援する、家庭菜園で遺伝子操作作物を作らないことを宣言
	事業者	遺伝子操作食品を作らない、遺伝子操作食品を扱わない姿勢を宣言

●別紙「GMOフリーゾーンサポーター宣言（個人用）」を提出していただくか、QRコードよりオンライン登録をお願いします。

●締切：12月15日（金）

●取り扱い団体 グリーンコープ生活協同組合ひょうご
〒664-0845 兵庫県伊丹市東有岡3-73-1
Tel 072-777-7630 Fax 072-777-7805

※GMOフリーゾーン宣言（農地・牧場・森林用）用紙もございますので、ご連絡いただきましたら、お届けします。

GMOフリーゾーンについて

GMOフリーゾーン運動のはじまり

今や世界中に広がっている「GMOフリーゾーン（遺伝子組み換え作物を拒否する地域）」は、スローフード発祥の地として有名なイタリア・トスカーナ地方のワイン農家によって1999年に始まりました。その後、2002年に環境団体「地球の友」がイギリスでキャンペーンを立ち上げたのをきっかけにヨーロッパだけでなく、北米やアジア、オセアニア地域にも広がっています。

欧州のGMOフリーゾーン宣言は、イタリアで全土の8割、フランスで1250を超える自治体、オーストリアやポーランドで全州政府、ギリシャで地方政府すべてが行うなど、拡大の一途をたどっており、2003年以来、ほぼ1年に1回、GMOフリーゾーン欧州会議を開いています。

日本のGMOフリーゾーン運動

日本でGMOフリーゾーン運動が本格的に始まったのは2005年。農薬空中散布に反対し、環境に配慮したコメ作りを行っていた滋賀県高島市の農家が同年1月、圃場に畳3畳大の看板を立て、GMOフリーゾーン宣言をしました。翌2006年3月に第1回GMOフリーゾーン全国交流集會を高島市で開催した後、1年に1度のペースで交流集會を開き、運動の拡大をはかっています。

第1回集會時に4,700ヘクタールだったGMOフリーゾーン宣言面積は2020年に10万ヘクタールを突破しました。自治体による宣言が主体の欧米と異なり、日本のGMOフリーゾーン宣言は農家や消費者が個々に行っているため、面積拡大のスピードは決して速くありませんが、個人による理解が進められる草の根運動の意義は大きいといえるでしょう。ゲノム編集作物・魚類などが出てきた今、ゲノム編集も含めた遺伝子操作に反対する運動として、ますます意義が大きくなっています。

遺伝子組み換え作物は植えない、売らない、買わないことを宣言するGMOフリーゾーン運動は、自然と共生しながら多様な種や農法によって農業を営み、自然と共生する人間の暮らしを守る運動です。それは、いのちを守り育む人たちの連帯運動と言い換えることもできます。

先祖から受け継いだ暮らしと自然を守り、それを子どもたちの未来に引き継ぐ者としての責任を果たそうとするGMOフリーゾーン運動は今後ますます重要になってきます。

